

## 関東支部

### 「子ども実験企画」開催報告—若い世代への啓発活動について

子ども実験企画実行委員長 堀江利治

日本薬学会関東支部では、平成24年、大学、企業のメンバーで構成される実行委員会を立ち上げ、若い世代へ向けた「くすり」に関する啓発活動について多面的な視点から議論を重ねてきた。本啓発活動を通して、若者たちが薬学に興味を抱き、そしてこれからの薬学界、日本薬学会をリードしてくれる人材となってくれることを期待して、小中学生を対象とした企画を行い、製薬企業の研究所に実験協力を依頼することとなった。

平成26年8月20日(水)、第1回子ども実験企画が第一三共の協力のもと、長井記念ホールにて実施された。中学1年生を対象とし、生徒13名(男子5名、女子8名)、保護者2名の参加を得て、午前中は講義と2つの実験、午後はDaiichi Sankyo くすりミュージアムの見学というスケジュールで進められ、参加者からは、大変充実した体験学習であったと好評だった。実行委員会ではこの初めての試みについて検証し、次年度は小学5、6年生を対象とすることにし、実験はエーザイの協力を得て準備に入った。

第2回子ども実験企画「夢の薬を作ってみよう!!錠剤・カプセル自作体験」は、夏休みに入って間もない7月28日(火)、エーザイ筑波研究所において開催された。予想以上に多くの参加申込みがあったため、参加者は先着順とし、小学生24名(男子10名、女子14名)、保護者15名にて実施することとなった。当日の流れ・昼食等に関する説明が貸切バス(東京駅8時30分発)の中で行われ、子どもたちの期待が膨らむ1時間ほどの旅であった。筑波研究所到着後、オリエンテーション、その後グループに分かれて研究所見学を行い、HTS、CAD、培養細胞などのデモ、研究員による好奇心がかき立てられる解説に加え、初めて見る優れた最新の研究システムに興味津々のようだった。昼食時には参加者の緊張も解け、豊富なメニューから選ぶ姿も嬉しそうで、眺望がすばらしく、きれいな社員食堂で、楽しい一時を過ごせたようである。午後は、講義「新しい薬ができるまで」の後、実験が開始された。打錠機用臼杵を用いた速崩錠の作製、4色の粉末(ピンク、白、緑、青)を使って自分たちの好みで充填して作るカプセル製剤、溶解実験など、白衣と保護メガネを着用したちびっ子研究者たちが、保護者と一緒に研究員から指導を受けている様子は微笑ましい光景であった。また、自作カプセルはバイアルに詰めて記念のお土産となった。実験終了後は、一人ひとりに「ちびっ子薬学博士認定証」が授与され、記念撮影が行われた。子どもたちが「くすり」に興味を持ち、将来薬学をリードしてくれることを期待しながら、バスで帰路についた夏の1日となった。

最後に、本事業に惜しめない協力をいただいた第一三共ならびにエーザイに、心より御礼申し上げます。

